

## 5. 実施事業紹介

---

### 事業（3）新潟JCアクションプログラム

「みんなで集おう！地域コミュニティ」

～地域に広げようご近所づきあいのWA～



#### ◆実施背景

様々な人々が各世代に亘って暮らす地縁社会においては、それぞれの顔が見える人付き合いこそが地域の活性化には欠かせないとの認識から、住民同士が関心を持ちあえる場が必要であると考えます。地域住民が一堂に参加する事業を実施することで、住民が連帯感を深め、安心・安全を守る近隣社会の生活に直結する諸問題の解決には自分たちが当事者であるという認識付けが必要であると考え、当事業を企画いたしました。

#### ◆事業内容

住民同士が関心を持ちあえる場として「多世代交流の場」を提供しました。地域の住民同士がお互いに興味を持ち、また、それぞれの経験をもとに発言・行動することで尊敬の念やおもいやりの心が生まれて、話し合う機会を創出することも併せて住民の連帯感が深まり、安心・安全を守る近隣社会の生活に直結する諸問題の解決には自分たちが当事者であるという認識につながると考え「多世代交流」事業を実施しました。ご近所付き合いの「輪」や地域の「和」を広げる願いをタイトルに込めています。

地域コミュニティ協議会を通じた主に高齢者の参加促進と、地域教育コーディネーターを通じた小学生を持つ家族の参加促進によって3世代交流を実現する試みです。会場は地域コミュニティの活動の核となる場所である小学校（体育館・家庭科室・グラウンド）を使用しました。参集した地域住民の方々には、4班に分かれて多世代交流をしていただきました。そして参加者には受付時に町名と名前をシールに書いてもらい、それを胸に貼ることで知らない人同士でも名前を呼び合える仕組みとしました。

## ◆各班の活動

### 【お料理班】

地域の女性同士の交流として参加者の昼食を料理してもらいました。普段このような機会はあまりないので、楽しくおしゃべりしながら、約130名の参加者においしいカレーライスを提供してもらいました。また配膳も積極的に行なういただき、食事を受け取りに来る1人ひとりと接触を持ってもらう事ができました。調理作業を通じて、女性の横のつながりを強化できたと考えます。



### 【ふれあい班】

地域の子供は地域の大人が育てる実践として、また未就学児とその親御さんが地域の先輩達と交流することを目的とする班です。しかし少子化の為か未就学児の参加がほとんど無く計画通りには実施できませんでした。急遽たくさんの参加を頂いたシニアの皆さんに輪になっていただき、地域内交流の昔と今



の違い、どうすれば交流ができるか、伝えたい地域のことなどについて意見交換をするワークショップを実施しました。若い世代が地域活動に参加していない実情や、住民同士でコミュニケーションをとる機会が少ないこと等の意見に加え、子供たちに伝えたい地域にある歴史的な場所や物、逸話などを聞くことが出来ました。一口に高齢者と言っても60代と80代では当然大きな世代差があり、年長者から多くの話を聞くことで地域をよく知ることができたとの感想もありました。

## 【地域発見班】

下町であるこの地域は湊新潟の文化が色濃く残っており、特に湊に関連した神社が点在しています。この地域の特色を生かして小学生と地域の大人とでグループを5つ作り、地図を頼りに8カ所を巡るスタンプラリーを行いました。残暑の厳しい中ではありましたが、歩きながら地域の昔話を聞いたり神社の由来などを学習したり、また子供からは意外な場所の抜け道を案内されながらの楽しい時間でした。新潟名物の冷たい「アイスクリン」を食べ地域の発見と共に世代を超えた交流となりました。

平成23年8月28日(日)

# わたしたちのまち「栄小学校区」 地域(ちいき)のごと いろいろ発見! スタンプラリー

私たちの町の色々なところにスタンプがおいであります。  
中面の地図を参考に、回る順番は各チームで決めて時間内に帰ってきてください。

1 展望台 (てんぼうだい)	2 公園 (こうえん)	3 日和山神社 (ひよりやまじんじゃ)	4 三河屋本舗 (みかわねほんぽ)
5 開運稲荷神社 (かいうんいなり じんじゃ)	6 金刀比羅神社 (こんびらじんじゃ)	7 湊稲荷神社 (みなといなり じんじゃ)	8 願随寺 (がねずいじ)

◆いっしょに回った人◆



## わたしたちのまち「栄小学校区」 地域(ちいき)のごといろいろ発見!スタンプラリー



いっしょに回るおとなの人に、  
地域のごとをいろいろ  
教えてもらおう!

これは必ず教えてもらおう!

1. △△は、昔は〇〇だったけど、今は□□になっているよ

\_\_\_\_\_

2. ○〇の□□は危険だ!

\_\_\_\_\_

3. 私たちの地域の名所(めいしょ)は?

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

× モ

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_



私たちの地域の色々なところにスタンプがおいであります。地図を参考に、  
回る順番は各チームで決めて時間内に帰ってきてください。



## 【運営班】

コミュニティ協議会の役員からなる班です。準備段階の参加者募集から当日の運営までを担って頂きました。さすがに動きも軽やかで、事業をしっかりと支えてもらいました。

## ◆全体での活動

各班の交流後に体育館で全員がカレーライスを食べました。昼食後の小学生と大人とのコミュニケーションツールとしてコマやけん玉、新潟JCが作成した「新潟郷土かるた」なども用意しました。童心に戻りけん玉に興じる高齢者と小学生が遊ぶ姿はととても微笑ましい光景でした。地域における世代を超えた繋がりや楽しさや必要性を感じてもらえるような場となりました。

その後、班ごとの活動の内容や感想をそれぞれの代表者から発表してもらいました。活動の様子を写真に撮りプロジェクターで映すことで、自分の参加した班以外の活動を追体験してもらいました。このことにより、全体の一体感も感じていただけたのではないかと思います。非常に暑い一日でしたが、ケガなども無く無事に事業を開催することができました。

## 【地域活動広報】

本事業は参加者に多世代交流を楽しんでもらいつつ、引き続き地域の活動に関心を持ち参加してもらうことが目的です。参加して知り合いが多少できたとしても、地域の活動の実態を知らなければそこでつながりが途切れてしまう可能性があります。

そこで、コミュニティ協議会役員から「地域活動広報」をして頂きました。自分の住む地域の役員が誰でどんな活動を日々地道に行なっているのか、そんなことすら知らない人が多いのが現実です。日々のパトロールや集会の状況、今後の活動予定などに加え地域に対する想いや住民にお願いしたいことなどを広報することで、役員の顔や名前を知り日頃の苦労をねぎらいつつ参加意欲に繋げる時間としました。

## 【終了挨拶】

各班別によるふれあい活動、全体会での食事と振り返りによる交流活動の共有、地域活動広報による今後の活動への喚起と意識向上の一連の流れを参加者に体験してもらった総括として、新潟青年会議所から挨拶を行いました。本事業は地域の資産（神社や商店）を活用することを含む多世代交流というアプローチですが、ひとつのきっかけとして利用して頂き、今後は地域住民が（役員だけではなく）主体的に地域に目を向け、活動に参加することで活性化に取り組んでもらえるように訴えました。

その際に以下の内容の「住みよい地域づくりのために」を資料として配付しました。

- 顔の見える関係があり気軽に挨拶を交わしている
- 困った時はお互い様で助け合うことができる
- 世代を超えた交流をして互いに関心を持っている
- この地域に住み続け積極的に活動に関わりたい
- この地域を子どもたちに残し伝えていきたい
- この地域を支えているのは私たち住民である

## 【総括】

地域には様々な人々が各世代にわたり生活を営んでいます。その人達がコミュニケーションを図ることによって地域は生き生きとしてくると思います。それぞれの顔が見えるご近所付き合いは地域の力の源です。

今回は中央区のコミュニティ協議会に住む住民にお集まりいただき多世代交流のイベントを実施しました。地域のことを想い、地域をよく理解し、そして日々熱意を持って活動をされている会長をはじめとするコミ協の役員方に、地域の活動に参加しない若者の代表者である私たちの提案が受け入れられるのか心配でした。しかしながら、このようなイベントをひとつでも実施し参加者が来てくれれば、自分たちが行う行事への参加促進につながるからということでご協力を得ることが出来ました。

夏休みの最後の日曜日ということもあって、子供を集めることは非常に大変だったと聞いております。若い世代の大人は仕事などで多忙を理由に参加できないが、子供も各種大会などで非常に忙しいのです。このような活動がなかなか参加者を集められない実態が見えたような気がしました。また、ふれあい班は計画通りには未就学児が集まらず、内容を変更して実施せざるを得ませんでした。これも地域の実情（子供が本当に少ない）を現す結果だと思えます。

そんな中、小学生たちが知らない大人と会話を交わしながら楽しそうに交流をしていたこと、もっとイベントに参加したいというアンケート意見が多くあ

ったことは非常に嬉しいことでした。また地域の神社や昔ながらの氷菓を知らなかったことなどは正直驚きました。

実験的な事業ではありましたが、このようなきっかけの場を生かし継続的な活動を行っていくことが大切です。そして全く参加していない住民を巻き込む取組みに加え参加したくてもできない住民の意思をつなぎ止めること、事業の結果を周知し続けることが今後の課題であると強く感じました。



## アンケートからの参加者の声

- ・ 参加者全員が楽しそうだった
- ・ コミ協と学校は共に協力的にうまくいっている
- ・ お料理班の方が協力的で前日の事前準備から当日もスムーズにできた
- ・ 日曜日なのに若者の出席率が悪い。町内に中年者が少なく、老人町内となりつつある
- ・ 若い世代の参加が少ないので若い世代の呼びかけが必要
- ・ お互いどことなく遠慮しているというか、きっかけが難しいというか、もっと主催者から交流を促すきっかけをさりげなく作らなければ
- ・ 場所がない、参加者が少ないという事ではなく、やり続ける、参加し続けることで色々と出来て行く
- ・ 地域発見班に参加した息子はとても充実して楽しかった様です。初対面の子どもさんと話も出来た様です。体育館に居た人達はあまり感じられなかった
- ・ 出来ることがあればお手伝いします
- ・ 若者の参加が望ましいが、お手伝い出来ることがあれば参加します
- ・ 年寄りがいると、若い人は煙たく思っている人が多いと思われる
- ・ 年代層にとらわれず皆さんに役立つ催しものを作ってほしい
- ・ 世代交流の運動会などがあるとよい
- ・ 地区によってバーベキュー大会を開催し地域交流をはかっている所があり、このような催しがあれば良い
- ・ 参加した方がその楽しさなどを周りに知らせWAを広げていくこと
- ・ 隣近所で高齢者や病気を持っている方が多々、介護や真心ヘルプの他にも隣近所の見守り、話し合いが必要だと実感
- ・ 新年会など集まりを増やすべき
- ・ この様な活動に参加する方は大体決まっており、まず参加しない人を参加するようにするにはどうすればよいのか？という事を考えるべき
- ・ 下町のイベントなどがもっとあれば良い
- ・ 高齢者が若者の意見を素直に聞けばもう少し良くなる
- ・ 地域の皆さんと学校・PTAと一緒に行事をやるとコミュニケーションが図られ活性化に繋がる
- ・ とにかく回数を重ねていかなければならない
- ・ お茶会・食事会・飲会など気軽に参加できる催し
- ・ コミ協がPTAを手伝う事で連携が出来ると思う
- ・ ふれあい班の話し合いが活発で勉強になることが多くとても良かった
- ・ 世代の違いを超えて話し合いができた
- ・ 参加者の評判が良かった
- ・ コミ協の事業はマンネリなので、今回のイベントは有意義で勉強になった

- ・ 親（P T A）を企画段階から巻き込み連携を強化することが必要
- ・ 回覧板だけでなく、声掛けをしてくれる人が必要
- ・ 近隣の保育園や幼稚園と連携を強化したい

## 子供たちの声

- ・ 班の人と楽しくしゃべりながら歩けた
- ・ スタンプを貯めるのが楽しかった
- ・ 普段しゃべらない人や地域の人とふれあえて楽しかった
- ・ 知らなかった事をたくさん教えてくれて楽しかったし、協力して取組むことができて良かった
- ・ 自分たちの地域にこんなに神社があることが発見できた
- ・ 神社のしめ縄が毎年変わることに
- ・ 地域の知らないことを知れたり大人の人と仲良くなれて楽しかった
- ・ 近所の人と仲良くなれてうれしかった
- ・ 歩いて色々な景色が見れて良かった
- ・ また参加したい
- ・ こういうイベントが沢山あったらいいと思いました
- ・ カレーがおいしかった
- ・ 知らない人とふれあいお話ができることが楽しかった
- ・ 自分のクラスの人ほとんど参加しなかったけど、楽しいので是非来て欲しい